# 臨床研究部

#### ■業務内容

臨床研究とは、病気の予防・診断・治療方法の改善や、 病気の原因の解明、患者さんの生活の質の向上などを目 的として行われる医学研究であり、治験等の臨床試験と 観察研究、橋渡し(トランスレーショナル)研究に分けられ ます。患者さんのために、より良い医療を提供したいという 思いと病気の原因やメカニズムへの探究心がこれらの研 究の原動力であり、多岐にわたる小児疾患の専門的な医 療を担っている当センターは、豊富な症例を用いた様々な 臨床研究を生み出す潜在能力を有しています。臨床研究 部は2017年4月に新設され、研究倫理や利益相反といっ た研究に必要なルールを守って、医療現場ならではの臨 床研究を行っています。

臨床研究部には、実験・研究を行う臨床研究室(3階病 棟エレベーター横)、研究費の申請・管理を始めとした研 究関連事務を行う臨床研究支援室(6階、管理部)、動物 飼育室の管理や動物実験に関する教育・精度管理を担当 する動物実験管理室の3つの部門(室)が設置されていま す。2017年度に臨床研究部は、文科省の研究機関として 指定され、研究を業務として行う研究員を院内辞令により 配置することとなりました。2024年度の研究員は医師13人 (兼任12人、専任1人)で、臨床検査技師3人(兼任1人、専 任2人)が研究業務と臨床研究室の管理を行っています。



検体保存に使用する安全キャビネット(左)と 独立した換気装置を備えた染色ブース(右)

### ■実績(2023年度)

- ●外部研究費 40件、33.864.310円
- 動物実験 3件(実験動物委員会承認件数) マウス延べ 63匹
- ●標本作製 パラフィンブロック 87個(薄切枚数7,323枚) 免疫組織化学染色 1.518枚
- ●FISH (fluorescence in situ hybridization) 100件(190枚)
- ●検体保存 細胞保存 357件、組織保存 52件

臨床研究部は、がんゲノム医療、がん免疫療法などの先 端医療・検査にも積極的に関与しています。病理診断科と 連携し、小児がんの病理診断に必要な特殊な免疫染色、 FISHによる遺伝子解析を行い、院内だけでなく、全国の小 児がん診断に貢献しています。

当センターは2018年にがんゲノム医療連携病院に指定 され、埼玉県立がんセンター(がんゲノム医療拠点病院)と 連携し、がんゲノム遺伝子パネル検査を通じて、患者さん の一人ひとりに合わせた個別医療を実践しております (2023年度保険診療9件)。

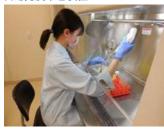
臨床研究室では患者さんの同意が得られた場合には、 研究のための検体保存を行っています。これらの貴重な検 体を大切に保存し、臨床研究に活かすことにより、病気の 原因の探求や新しい治療の開発を目指していきたいと考 えています。

また、臨床研究室内のP2実験室では、白血病・リンパ腫 に対するCAR-T細胞療法に用いるアフェレーシス産物の 細胞調整を行っており、これまで8例実施しました。

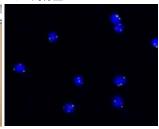


自動免疫染色装置

マウス飼育室



検体保存(骨髄血)



腫瘍細胞の遺伝子解析(FISH)

# ■スタッフ紹介



中澤 温子

動物実験管理室(兼) 菅沼 栄介

副技師長(兼) 急式 政志

茂木 治 出口 亜美 鮎澤 美代子

臨床研究支援室(兼)

臨床検査技師 海口 璃奈 石川 さやか

# 看護部の理念

埼玉県立小児医療センター看護部は、 子どもたちの未来のために子どもたちの最善を目指した 看護を提供します。

# 看護部の基本理念

- ●高度医療に対応できる質の高い看護を提供します。
- ●地域と連携した看護を推進します。
- ●子どもの特性を踏まえた生活環境を提供します。
- ●子どもの人権を保障し信頼される看護を提供します。
- ●看護の専門性を深め、質向上に努めます。

### ■看護部長からのあいさつ

「For the future、for the children~こどもたちの未来 は私たちの未来~」を理念とし、高度で専門的な医療を 提供しています。さいたま赤十字病院との連携により総合 周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植 センター (生体肝移植) を運営しています。リスクの高い 新生児、重篤な状態の小児救急患者さんを受け入れてい ます。小児がん拠点病院としては新生児期からAYA世代ま で幅広い年齢層の子どもたちを受け入れ、子どもたちの 年齢に合わせた環境を整えることに努めています。当セン ターでは「子ども憲章」を掲げ、どのような時でも一人の人 間として尊重され、子どもにとって最善の方法を選択する ことを約束しています。そして、安心できる療養環境を提 供することを大切にしています。その一環として看護部で は、子どもの安全を守りながら回復促進を支援し、子ど もの権利を尊重した身体抑制最小化に取り組んでいま す。

看護師教育では看護師一人ひとりが、子どもの安全を 第一に考え、責任ある行動をとることができる看護師を 育成しています。教育体制はOJT (On the Job Training) を主軸とし、「共に学び、共に成長する」ことを目指して います。

私たちは、子どもとご家族の思いを大切にし、寄り添 い、子どもたちの可能性、頑張る力を引き出し、回復過 程を支援しています。

埼玉県唯一の小児専門病院看護部として、高度専門 医療の充実に今後も取り組んでいきます。

[働き方改革を基盤としたユニホームの変更] 2021年度から、日勤者、夜勤者の区別を明確にするためにユニホームを一新しました。



看護部職員 日勤者、夜勤者で区別化する新ユニホーム

の部

# 看護部

#### ■看護部の教育方針

子どもの権利を尊重し、その子どもにとって最善の看護を提供できるようにご家族とともに考え実践できる看護師を育成 します。

#### 「新入職員研修の様子」



#### 「新卒看護師の支援】

プリセプターシップ、パートナー シップナーシングシステム等を 導入しています。



# ■ 継続教育について

当センターの継続教育は日本看護協 会クリニカルラダーに基づき、教育体系 を構築し、実施しています。

子どもの権利を尊重し、家族を含め た看護について考え、実践するための看 護倫理や家族看護の研修、小児の特徴 を理解するためのリスクマネジメント研 修などを行っています。

看護管理者 看護管理実践 レベルIVから 特定領域の 選択可能 スペシャリスト レベル|||から 選択可能 レベルIV

教育·看護研究

指導者

幅広い視野で

予測的判断を

レベルIII チームリーダー

新人·実習等 指導担当者

個人的な看護を 実践

レベルV

看護の質保証

高度・専門分野の 看護実践モデル

看護単位リーダー 看護管理者の補佐 教育·看護 研究指導者 複雑な状況におい

て、最適な手段を 持ち看護を実践 選択してQOLを高 める看護を実践

# レベル 基本的な看護

手順に従い、 助言を受け、 看護を実践

日本看護協会クリニカルラダーを基盤とした 埼玉県立病院クリニカルラダーとキャリアデザイン

### 「看護の質に対して」

2001年から埼玉県立大学と共同研究でオレム看護理論を基盤とした看護過程の展開に取り組んできました。この看護過 程は子ども・ご家族の頑張る力を最大限に引き出すための援助を目的としています。2019年にこの理論は「こどもセルフケア 看護理論」として確立し、当センターは小児看護の中でも先駆を切って取り組んでいます。

レベルⅡ

プライマリーナース

自立して看護を

実践

# 看護部

#### ■各部門の紹介

#### ●病棟部門

9階から12階は外科系、内科系の診療科に分かれていま す。個室が80床あり(有料個室含む)快適な療養環境を整 えています。

病棟ではオレムのセルフケア理論を活用し、ご家族や子 どもたちを療養の主体とした看護実践、セルフケア能力の 向上を支援しています。

専門性の高い看護を提供すると共に、一人ひとりの子ど もの成長・発達に合わせた教育にも力を入れています。セ ンター内にある特別支援学校への通学や、病棟保育士に よる絵本の読み聞かせや工作など、子どもの発達段階に 合わせた療養環境を提供しています。



カンファレンスの様子

### ■総合周産期母子医療センター

さいたま赤十字病院は母体側、当センターはNICU30床 /GCU48床を有し、ハイリスクな新生児への救急医療を 行っています。母子ともに安心できる空間と母乳育児やカ ンガルーケア、音楽療法などを取り入れ、ご家族との絆を 大切にした看護を提供しています。



新生児集中治療室(NICU)

# ●小児救命救急部門

小児救命救急機能として救急外来から速やかにPICU/ HCUへの治療へつなげる高度専門医療の提供を行ってい ます。

#### ●手術室

手術が円滑、安全に進むよう、手術前訪問の実施、看護 計画の立案と他職種と協力しながら看護を行っています。 手術室は7部屋で、24時間緊急手術に対応しています。

手術室は入口から「動物たちのお店」をテーマにアートが 描かれ、室内の配色も暖かみのある色で入室する子どもた ちの不安の軽減に努めています。



手術室のホスピタルアート

#### ●外来

一般の外来では一日平均500~600人ほどの子どもたち がご家族と共に受診されます。看護師は、検査・治療・手術 に向けて子どもたちの頑張る気持ちを引き出す援助をし、よ り良い外来看護となるよう各部署との連携を図っています。

#### ■入退院支援センター

### 「入院支援」

手術や検査で入院する患者さんを対象に入院に関する説 明や支援、調整を行っています。

# 「ベッドコントロール】

入退院支援センターでは、より多くの患者さんにご利用いた だくために、病床管理を行っています。

#### 「退院調整•在宅支援相談室]

退院後に経管栄養法、在宅酸素療法や在宅呼吸器などの 医療的ケアを必要する患者さんの退院調整・退院後の在 宅療養支援・地域連携を行っています。外来通院中の患者 さんの相談、調整も行っています。在宅支援相談室では小 児在宅看護研修会を実施し、訪問看護ステーションや特別 支援学校、保健センター等との連携を深めています。

### ■専門看護師、認定看護師について

当センターでは、高度で専門的な医療・看護に対応す べく、日本看護協会で認定された6人の小児専門看護師 と18人の認定看護師が活躍しています。

「実践」、「相談」、「調整」、「教育」、「研究」、「倫理調 整」の六つの柱から年間活動を行っています。院内外研 修・勉強会の講師のほか、外来や各病棟からの各専門領 域に対する依頼への対応、啓蒙活動の企画・運営・実施 をするなど多岐にわたります。

看護部では専門看護師や認定看護師を目指すスタッ フへの支援も行っています。

# 保健発達部

小児医療センターでは、医療の提供以外にも小児の全人的な成長のため、子どもの成長と発達にとって必要 な保健と発達支援の一体的な運営を行い、さらに教育との連携を図っています。

# 保健部門

#### ●予防接種センター・予防接種外来

市町村の医療機関が行う予防接種事業の支援を行っていま す。具体的には、予防接種の実施、予防接種に関する相談、予防 接種情報の提供などの活動を行っています。また、健康被害が発 生した場合、その対策、調査などについて、県内の市町村からの 相談窓口になっています。

予防接種外来では、主に地域で予防接種が受けられない方を 対象にしています。具体的には、主に基礎疾患があるために接種 に注意が必要な方、前回の接種でトラブルがあった方、海外渡 航者、その他の理由のために当センターでの接種を希望される 方です。2023年度は、延べ接種患者数1,193件、延べ接種回数 1,996件の実績、新規で89件のご紹介をいただきました。他の施 設ではあまり接種されていないワクチンとしては、狂犬病ワクチン (予防並びに暴露後)、A型肝炎ワクチン、髄膜炎菌ワクチンなど が挙げられます。また、2022年4月から子宮頸がんを予防するヒト パピローマウイルス(HPV)ワクチンの積極的推奨の差し控えが 終了し、対象となる方への接種を積極的に行っています。当セン ターでは、定期(公費)で接種可能な4価ワクチン(ガーダシル ®)、9価ワクチン(シルガード9®)の接種が可能です。また、院内の 各診療科からの紹介は131件ありました。主に基礎疾患を有する 長期入院や臓器移植後の患者さんへの接種が含まれます。

2023年度の予防接種に関する医療相談事業の件数は537件 (前年比34件増)で、内訳は電話相談289件(58件減)、メール相 談248件(92件増)でした。

#### ●生活アレルギー外来

アレルギー性疾患の治療はもちろんのこと、食物を含めた環境 因子の改善、アレルギーに関する情報を正確に伝えることに重点 を置いています。2023年度は53人の患者さんを新規にご紹介いた だきました(前年比12人減)。当センターでは食物負荷試験を日帰 り入院、又は外来で行っております。2023年度は、入院49件、外来 45件であり、近年実施数は増加傾向にあります。さらに2021年度か らは外来日を週2回に増やしており、食物アレルギーだけでなく気 管支喘息、アトピー性皮膚炎、繰り返す蕁麻疹など多くのアレル ギー疾患の患者さんを受け入れております。

#### ■ 保健外来スタッフ紹介



副病院長 保健発達部長 浜野 晋一郎



感染免疫: アレルギー科 菅沼 栄介



精神科 舟橋 敬一



精神科 平山 優美



遺伝科 大橋 博文



遺伝科 大場 大樹

菅沼 栄介(月曜日·水曜日·午前)、上島 洋二(月曜日·午後)、 古市 美穂子(水曜日・午後)

(件)

### [2023年度 予防接種実績]

		~	3 173 350 123 4 1542		(11.
			二種混合(DT)	9	
			三種混合(DPT)	30	
			四種混合(DPT-IPV)	285	
			A型肝炎	82	
			BCG	32	
			B型肝炎	315	
			季節性インフルエンザ	81	
			ヒトパピローマ(HPV)	20	
	ワ		ヒブワクチン	259	
	ク		ポリオ	22	
	チン		ムンプス	66	
	種類		ロタウイルス胃腸炎	127	
		:	狂犬病	108	
			水痘	76	
			髄膜炎菌	6	
			日本脳炎	91	
		:	破傷風	15	
			肺炎球菌(PCV、PPSV)	283	
			風疹	2	
			麻疹	4	
			麻疹・風疹	38	
			麻疹・風疹混合	45	
			合計	1,996	

#### [生活アレルギー外来担当]

佐藤 智、南部 明華(水曜日·金曜日午後)

### ●精神科•精神保健外来

0歳児から小学校6年生までのお子さんを対象に心や発達の無 病について診療しています。臨床心理士などのコメディカルスタッ フや、教育・保健・福祉等の地域関係機関とも連携しながら、子育 てを支援していけるよう心掛けています。

# ●遺伝相談外来

遺伝性疾患や先天異常について心配されている患者さん・ご 家族に対して、正確な診断に基づいた医学的情報提供とともに心 理的・社会的な支援にも配慮した診療を行う外来です。

# 保健発達部

# 発達部門 発達外来

発達部門・発達外来では、乳幼児期の発達面における問題を指摘されたお子さんの診療を行っています。埼玉県内外の地域で実施されている乳幼児健診や発達相談からの紹介、医療機関からの紹介のほか、当センター内ではNICUを退院したハイリスク児や院内他科でフォローされているお子さんの依頼をお受けしています。

小児神経専門医あるいは小児科専門医が担当し、問題 点や症状の評価を行い、フォローしています。脳性麻痺な どの身体機能的な障害に対しては必要に応じて薬物治療 を行っています。知的能力障害群や神経発達症群のお子 さんに対しては、基本的に就学までをめどに家庭での養育 や保育環境、療育等に関する助言を行っています。必要に 応じて地域の指導・療育機関を紹介しています。地域にお ける療育体制が不十分な場合には、補完的に当センター のリハビリテーション部門で対応することがあります。

#### ■先進医療・特殊医療

特に、先進医療・特殊医療として行っているものはありません。しかし、他の診療機関では行っていることが少ない多職種による総合的発達評価外来として、アセスメント外来を実施しています。アセスメント外来は、個別の発達外来では診断が困難な症例、並びに保護者の障害受容・療育指導に課題がある症例に対して総合的発達評価を行う外来で、多職種が同時に行動観察し、発達を評価します。

#### ■対象疾患

発達外来では、小児神経科医又は小児科医が、以下の 三つの条件のいずれかに該当するお子さんを診察していま す。原則的に、初診は就学前までの年齢とさせていただい ています。

- ①運動発達の遅れがあるお子さん
- ②ことばの遅れ、知的発達の遅れ、あるいは行動面で何らかの問題を持つお子さん
- ③当センターに通院している診療科から院内紹介された、発達面の問題が疑われるお子さん

#### ■診療実績(2023年度)

●初診総数

578人(院内紹介 122人、院外紹介 460人(重複あり、延べ紹介数として))

●紹介元

医療機関 293件(当センター除く) 保健センター・地域発達相談 157件

初診時の暫定的診断名

自閉スペクトラム症(知的能力障害の併存を含む) 329 人、知的能力障害 104人、発達障害 57人、言語発達遅滞 21人、注意欠如・多動症 2人、脳性麻痺・ハイリスク児 7人、筋緊張異常 9人、正常バリエーション25人、難聴 3人、選択性緘黙 1人、構音障害・吃音 9人、染色体異常・奇形症候群 4人、その他 7人

### ■ 発達外来スタッフ紹介



科長 菊池 健二郎



医長 小一原 玲子



医長松浦 隆樹



医長 平田 佑子

# 発達部門 発達支援

発達支援部門は、様々な障害を持ちながら生きていく子 どもたちとそのご家族を支援します。理学療法士・作業療 法士・言語聴覚士・臨床心理士・視能訓練士で構成されて います。

- ■理学療法士(8人)は、運動・呼吸・哺乳/摂食などの問題 の改善に取り組んでいます。生後数日の赤ちゃんから高 等学校卒業までを対象とします。理学療法の内容は、以 下のように様々です。
- ●運動発達支援

運動発達の異常や遅れがあるお子さんに対して、基本 的な姿勢や運動の練習、生活動作の練習、治療体操な どを行います。

●呼吸理学療法

痰の排出を助け、楽に呼吸ができるように援助します。

●哺乳/摂食

経口摂取の姿勢の調整や口腔機能の発達に合わせた 援助を行います。

■ポジショニング

安楽な姿勢をとることで呼吸を楽にしたり、変形・拘縮 の進行を予防します。また、活動しやすいように姿勢を整 えます。

●急性期理学療法

外傷や感染による入院や整形外科・脳神経外科などの 術後の急性期から評価と集中的な運動療法を行います。

●廃用予防

入院治療中の活動性の維持を目的とした運動療法を行います。

●補装具作製

補装具の適応を検討します。

# 保健発達部

- ■作業療法士(5人)は、発達障害、疾病や外傷等によって 家庭生活や集団生活に困難さが見られるお子さんを対 象として評価・支援を行っています。お子さんの発達特 性や発達段階を評価し、個々の発達が促進されるよう、 適切な遊びや作業活動を用いて支援を行います。具体 的な内容は以下のとおりです。
- ●自閉症スペクトラム障害や注意欠陥多動障害、発達性協調運動障害など神経発達症のお子さんを対象としています。作業療法の様々な理論や発達理論に基づき、コミュニケーションの基礎能力や行動を統制する力、日常生活動作に必要な運動能力や認知能力、道具や物の操作能力といった家庭や集団生活場面に適応する能力の向上を図ります。
- ■脳性麻痺などの先天性、又は脳血管障害・外傷・感染後遺症など後天性の身体・運動機能に障害のあるお子さんを対象としています。生活年齢や発達年齢に適した日常生活動作や学習的活動が行えるよう粗大・巧緻運動能力、認知能力の向上を図ります。
- ●小児がんのお子さんを対象としています。発症及び長期 入院が心身機能の発達に及ぼす影響に対し、動機付け の高い遊びや作業活動を用いて廃用の予防、生活・学 習活動を維持向上できるよう支援します。
- ●言語聴覚士と協働して、発達障害児の保護者に向けた 講義「早期子育てサポートプログラム(FESS)」を開催 し、保護者支援も行っています。
- ■言語聴覚士(3人)は、コミュニケーション(話す・聞く・読む・書くなど)や食べる機能に困難のあるお子さんに対して、評価・支援を行っています。対象となるお子さんの背景にある問題は、以下のように多岐にわたります。言語発達障害/聴覚障害/口唇口蓋裂/構音障害/吃音/失語症/高次脳機能障害/学習障害/摂食嚥下障害/鼻咽腔閉鎖不全/舌小帯短縮症/気管切開後の発声発語障害/精神発達遅滞/自閉症スペクトラム 他
- ●個別評価を実施し、必要な支援について保護者に助言 1.ます。
- ●必要に応じて学校・保育所・地域の療育機関等と連携をとっています。
- ●病院の機能上、継続的な個別訓練(療育)は基本的に行っていません。
- ●難聴ベビー外来や口唇口蓋裂児のご家族向け集団外来Kuchi-com(くちこみ)、発達障害児を対象とした早期子育てサポートプログラム(FESS)など、保護者支援を実施しています。
- ■臨床心理士・公認心理師(4人)は、お子さんの気掛かり なことについての心理療法や相談、心理検査を行ってい ます。
- ●心理療法

児童精神科医からの依頼で、お子さんの遊戯療法や認知行動療法、面接、並びにお子さんに関する保護者からの相談を行います。

●発達相談発達に関する相談を行います。お子さんの状況により、母子同室、又は母子別室で相談を行います。

#### ●心理検査

各科からの依頼で、発達検査、知能検査、人格検査、神 経心理学検査などを行います。

#### ●病棟回診

ソーシャルワーカーや在宅看護師と一緒に、NICUやがん 病棟を含めた全病棟の回診、並びにカンファレンスやコン サルテーションを行っています。

- ■視能訓練士(2人)は眼科医の指示のもと眼科一般検査、視能訓練に携わっています。
- ●検査内容

眼科一般検査に加え、主に斜視や弱視に関する検査を 行っています。

視力検査、屈折検査、眼位・両眼視機能検査など

●弱視訓練

不同視弱視や斜視弱視に対してアイパッチなどの弱視 訓練を行っています。

●ロービジョン訓練

視覚障害がある患者さんに対して、就学に必要な単眼鏡やルーペなど視覚的補助具の選定や指導を行っています。

■多職種特別外来(アセスメント外来、ダウン症候群(DK) 外来、哺乳摂食評価(もぐもぐ)外来、痙縮治療外来、超・ 極低出生体重児フォローアップ(つくしんぼ)外来など) 医師や看護師と共に、多職種が関わり評価・指導を行い ます。



理学療法室



作業療法室



スタッフート

# 放射線技術部

### ■放射線業務について

放射線検査業務では、各診療科からの依頼で質の高い画像の提供に努めております。放射線治療業務では、リニアック照射室、治療計画用CT検査室が整備され精度の高い照射が行われています。また放射線技術部では、お子さんに対する声掛け等の接遇の徹底、検査は複数人での対応を基本とし、お子さん、保護者が安心して気持ちよく検査を受けていただけるように心掛けています。

### 〈一般撮影検査〉

単純X線撮影、透視造影撮影、骨密度測定、超音波検査、病棟ポータブル撮影を行っています。撮影室内は、撮影時のストレスや恐怖心を軽減できるようにアメニティを工夫し、さらにお子さんのご負担となる検査時間の短縮に努めています。また、フラットパネル撮影システムを使用することで被ばく線量の低減、高画質化に取り組んでいます。

# 〈CT検査〉

新生児の心臓の検査や息止め・静止が困難なお子さんの検査に対しても短時間撮影を駆使し高画質な画像を提供しています。また、3D画像の作成、冠動脈の解析も行っています。撮影目的に応じて線量を抑え被ばく低減に取り組んでいます。

### 〈MRI検査〉

3TとI.5Tの2台を擁 し、先天性の疾患にも 積極的に取り組み、特 に心臓MRI検査では、 心筋の動き、血流、心 臓の容量も測定して います。麻酔科が介入



MRI室

する体制を整えており、安全な鎮静下でより精細な 画像を提供しています。頭部MRIにおいては休日・夜 間の緊急検査にも対応しています。

### 〈血管撮影検査〉

心疾患や脳疾患を対象にカテーテル検査及び治療を行っています。さいたま赤十字病院と連携して成人の心房中核欠損症のアンプラッツアー閉塞栓、出産直後のカテーテル治療も行っています。また、ハイブリッド手術室を整備しており、生体肝移植後のIVR、術中の血管撮影、ハイリスクカテーテル治療にも対応しています。

# 〈核医学検査〉

SPECT装置及びSPECT-CT装置を擁し、脳領域、腹部領域、腫瘍、骨など多岐にわたり検査が行われており、小児に特化した撮像方法や撮像条件を検討して情報量の多い画像を提供しています。また、小児投与量ガイドラインに則り、正確なRIの投与に努めています。

# 〈放射線治療〉

脳及び体幹部の照射、骨髄移植前の全身照射を 行っています。画像誘導放射線治療(IGRT)を積極的 に使用し、正確で迅速な治療に取り組んでいます。

また、鎮静薬を使用しなくても円滑な照射ができるように、照射室での練習や、CLS(Child Life Specialist)の介助立合いを行っています。長時間かかる治療など鎮静が必要なお子さんには、麻酔科が介入する体制も整えています。



リニアック室

# ■診療実績(2023年度)

# 検査項目別(件)

単純撮影	33,199	核医学検査	807
病室撮影	18,037	手術室撮影	1,711
CT検査	3,426	骨塩定量	161
治療計画CT	25	TV透視撮影	777
MRI検査	3,193	パノラマ撮影	209
血管撮影	338	放射線治療	631
超音波検査	6,846	合計	69,360



スタッフ一同

#### ■スタッフ紹介

 部長
 松本 愼

 副部長
 山口 明

 副部長
 小川原 佳和

 副技師長
 横山 恭子

 副技師長
 內田 力男

 副技師長
 鈴木 伸貴

 [職員構成]

診療放射線技師 26人 助手 I人

# 検査技術部

#### ■検査技術部

検査技術部では全ての患者さんのために良質な検査データの提供に努めるとともに高度先進医療を担う病院の臨床検査技師として高い技術と知識の習得に努めています。また、国際規格ISOI5189認定を取得しています。そして、各々の検査室、各々の職員が協力して病気の診断や治療に貢献するため、日夜診療支援を行っています。

#### ■生化学・免疫検査室

未熟児・新生児の微量検体に対応可能な生化学免疫検査機器を導入し診察前検査や救急検査に24時間対応しています。また、生体肝移植術の開始に伴い免疫抑制剤使用時の血中薬物濃度検査も、24時間迅速対応で実施しています。



生化学自動分析機(生化学・免疫検査室)

# ■生理検査室

患者さんに直接検査装置の一部を装着し、又は当てて検査をします。心電図、負荷心電図、ホルター心電図、脳波、大脳誘発、心エコー、肺機能、聴覚等の検査を行っています。乳幼児では眠剤を使用し、眠ってから検査を実施する場合もあります。また年少の患者さんには検査時DVDや音楽などを用いて、検査に対する不安や恐怖心を軽減できるよう工夫して検査を行っています。



トレッドミル検査(生体検査室)

### ■輸血検査室

ABO型、Rh型の血液型検査、不規則抗体スクリーニング検査、直接・間接クームス検査、交差適合試験など、安全な輸血のための検査を行っています。手術中の出血や血液疾患の治療に必要な血液製剤の発注・予約・在庫管理を行っています。主治医、血液センターと

緊密に連絡を取り、無駄のない製剤管理・供給を心掛けています。

#### ■細菌検査室

患者さんの検体から感染症の原因となる、細菌を分離培養し、同定・薬剤感受性試験を行っています。また、感染対策チーム(ICT)のメンバーとして、耐性菌の解析等を行い、院内感染の対策に努めています。その他、迅速検査や各種PCR検査を実施しています。いずれも感染症診療に有効なデータを的確に素早く報告できるよう心掛けています。

### ■血液•一般検査室

血液検査部門は、貧血や血液・造血器腫瘍などの血液疾患を診断するため、血球算定、白血球分類、骨髄検査などの血液検査や、血友病などを始めとする凝固異常の診断、術前検査、抗凝固療法のモニタリングなどの凝固検査を行っています。一般検査部門は、尿、便、髄液、体腔液など様々な材料を対象に検査を行っています。



血液自動分析(血液:一般検査室)

# ■マス・スクリーニング検査室

新生児マス・スクリーニングは心身障害発症を予防する事業で、全ての新生児に対し公費で行われる検査です。2012年からタンデムマス質量分析装置を導入し、現在、内分泌疾患、糖質代謝異常、アミノ酸代謝異常、有機酸代謝異常及び脂肪酸代謝異常の20疾患を対象とし検査を実施しています。

### ■遺伝検査室

遺伝科と連携のもと、様々な遺伝学的検査(染色体検査、FISH、マイクロアレイ、(MS) MLPA、シーケンス、次世代シーケンス)を用いた遺伝性疾患・先天異常症候群の精密診断とともに、細胞・DNAバンクの運用を含めた、院内の遺伝学的解析の包括的情報管理センターの機能を担っています。

#### ■スタッフ紹介

部長 小山 真弘 副部長 坂中 須美子

[職員構成] 臨床検査技師 常 勤 41人 非常勤 7人 その他の職員 非常勤 8人

# 薬剤部

#### ■薬剤部の理念

「安全で質の高い小児薬物療法の提供」

全ての薬物療法に薬剤師が関わり、その安全と適正使用 に責任を持ちます。

#### ■取組

### ●小児の成長や発達に最適化した調剤の提供

薬剤部では、薬物療法における投与量や服用方法、相互 作用、配合変化、併用禁忌等について、患者さんの病態だけ でなく、成長と発達の面からも総合的に評価して、小児薬物 療法の安全と適正使用に努めています。

処方薬では、患者さんの年齢や発達段階を考慮した、細 やかな用量設定と剤形選択に従った調剤を行っています。 小児の調剤では錠剤等の粉砕を含む散剤の割合が高いた め、集塵機能を有する散剤調剤室を設けて、職員の作業環 境にも配慮しています。

注射薬については、注射薬自動払出装置を導入して、患 者さんごとに一施用単位での供給を行っています。また陽圧 クリーンルーム (ISO6) と陰圧管理されたハザードルーム (ISO7)を有し、中心静脈栄養輸液や抗がん剤の無菌製剤 処理(ミキシング)を行っています。さらに専門医療で求めら れる院内特殊製剤にも取り組み、試験検査体制を整備して います。



ハザードルームでの 抗がん剤のミキシング

### ●小児領域に関する医薬品情報の充実

医薬品情報では、医薬品の安全性や治療に関する情報 を収集・加工して提供するとともに、副作用情報の収集と 報告を行っています。小児領域の医薬品情報では薬物療 法や調剤に必要な情報が少ないため、小児薬用量など、 小児薬物療法に関わる諸テーマについて、継続的な調査 も行っています。

#### ●病棟担当薬剤師と他職種連携の強化

病棟業務では、薬剤管理指導業務の一環として、患者 さんとその保護者を対象とした服薬指導を行っています。 また全ての病棟に担当の薬剤師がおり、病棟内の薬剤管 理と安全使用に関わっています。

現在、集中治療系の病棟2箇所(PICU·HCU)と小児が ん関係の病棟2箇所(IOA・IIB)、そして循環器病棟(IOB)

と混合病棟(12A)に薬剤師が病棟常駐しており、今後、全 ての病棟と手術室に薬剤師が常駐して病棟薬剤業務を実 施することを目指しています。

また、感染対策(ICT)や栄養サポート(NST)、緩和ケア、 褥瘡などのチーム医療に薬剤師が参加し、多職種連携に 取り組んでいます。



おくすり相談室での服薬指導

#### ●その他の取組

この他にも、おくすり相談室を活用した相談支援体制の強 化、小児治験ネットワークと連携した小児治験の推進と治験 薬管理体制の強化、効率的かつ経済的な医薬品管理体制 の確保、院外処方箋の発行を通じた地域連携の推進、認定 取得などの専門性を有する薬剤師の育成、社会人研修や薬 学実務実習の受入れなど、多方面の業務に積極的に取り組 んでいます。

また2020年度からは、さいたま市薬剤師会と院外処方箋疑 義照会簡素化プロトコルを締結し、院外処方箋の疑義照会 に係る事務の省力化と標準化に取り組んでいます。

#### ■業務内容

調剤(処方·注射)、院内製剤、医薬品情報、薬品管理、試験 検査、薬物血中濃度測定、薬剤管理指導業務(服薬指導)、病 棟薬剤業務、治験管理業務、その他

### ■ その他(2023年度実績)

院外処方箋発行率 89.9%、薬学実務実習生受入 10人

### ■スタッフ紹介

副部長 嶋崎 幸也 副部長 石井 香織 佐藤 直子 副技師長 副技師長 片山 明香 副技師長 安西 佑太 副技師長 松本 純

[職員構成]

常勤 31人 非常勤 2人 薬剤師 認定取得者 NST専門療法士

> 小児薬物療法認定薬剤師 9人 認定実務実習指導薬剤師 4人

2人

# 栄養部

#### ■栄養部の理念

私たちは子どもたちの未来のため、治療、発達、発育を支えるため、一人ひとりに合った適切な栄養管理を実践します。

### ■基本方針

- I 質の高い信頼されるフードサービスを提供します
- 2 医師と連携し個人に合わせた栄養指導を行います
- 3 治療目的達成に向けたチーム医療を実践します
- 4 危機管理体制の整備を行います

### **■**フードサービス

厚生労働省の定める健康保険法「入院時食事療 養費」の規定に基づき実施しています。

食事を治療の一環として位置付けており栄養成分管理を行っています。守るべき三つの『食』をコンセプトに朝、昼、夕の他10時、15時のおやつや離乳食、ミルクや経腸栄養剤の提供を行っています。

### ●「高度専門・最新医療を支える 食」

食品の選定から献立管理まで病院の管理栄養士が 品質管理を行っており、HACCP方式導入による徹底し た衛生管理の下、フードサービスを行っています。

アクアガスオーブンの導入により厳しい衛生管理と おいしさとの両立が可能となりました。

入院患者の年齢は様々で成長、発育に合わせた量の調整や形態の工夫を行っています。また厳しい治療中の回復までの期間をつなぐ食事として、嗜好、症状により個別に選択できる"アラカルト食"の提供を行っています。

# ●「子どもたちを育む 食」

食器を選ぶ際には、伝統的な文化を取り入れる一方、楽しさ、使いやすさなどにも配慮しています。選択食の他、季節に合わせた行事食にはカードを添えて提供しています。入院中にお誕生日を迎えた患者さんには15時のおやつに、バースデイカード&ケーキのワゴンサービス、さらに希望者にはポラロイド写真の撮影サービスも行い、病棟スタッフやご家族とともにお祝いをしています。

### ●「いざというときの 食」

災害に強い厨房づくりや、防災備蓄品の整備、業 務継続計画を作成し危機管理体制を整えています。

#### ■栄養指導

成長や発達に応じた食事の進め方、各疾病に合わせた治療食について等、継続した指導により家庭での食事がスムーズに実践できるよう個々に寄り添った対応を心掛けています。

個別栄養指導は入院、外来合わせ年間1,000件、 腎疾患、I型糖尿病、II型糖尿病、肥満症、先天性代 謝異常症、食物アレルギー等のほか体重増加不良、 経口移行、食生活全般等内容は様々です。

集団指導は、アミノ酸代謝異常症を持つ家族の会、小児特有の集団指導外来(DK外来、PW外来、もぐもぐ外来等)にコメディカルメンバーの一員として参画し食や食に関する環境面から関わっています。

### **■ NST活動**

2008年に栄養サポートチーム(以下NST)を立ち上げ、2013年4月に日本栄養治療学会のNST稼働施設認定を取得しました。

メンバーは医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、事務職員、管理栄養士で構成されています。①入院患者の栄養評価②回診(I回/週)③コンサルテーション(随時)④勉強会(3回/年)⑤委員会(I回/隔月)が主な活動です。各々の専門性を出し合い、一人ひとりに合わせた最良の栄養支援が行えるNSTを目指しています。また、褥瘡対策委員会、緩和ケアチーム等へも参画しチーム医療の一翼を担っています。



入院中のお食事



スタッフ一同

# 臨床工学部

### ■臨床工学技士とは

臨床工学技士は、1987年に誕生した国家資格です。医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守管理を行う事を業とする医療機器の専門職種で、医師を始め看護師などと共に医療機器の高度化・複雑化が一層進む中チーム医療の一員として生命維持をサポートしています。現在、10人の臨床工学技士が在籍し緊急時対応を行うため当直体制をとっています。

### ■業務内容

### ●体外循環業務

先天性心疾患を持つ患者さんに対して、心臓と肺の代わりをする人工心肺装置を操作しています。当センターでは、学会認定資格の体外循環技術認定士が7人おり安全な人工心肺を施行するように心掛けています。また、重症の循環不全・呼吸不全患者へはECMO(補助循環)を導入し、医師・看護師と共に管理を行っています。

# ●呼吸療法業務

通常の呼吸療法だけでなくマスク式人工呼吸器やNHF療法のフィッティング、NO吸入療法や低酸素療法など特殊な呼吸療法についても関わっています。また、自己研鑽の一つとして呼吸療法認定士を取得するようにしています。

### ●血液浄化・アフェレーシス療法

急性腎不全に対し持続的腎代替療法(CRRT)や血漿交換療法(PE)も行っています。また、末梢血幹細胞採取や骨髄血濃縮、CRT-T療法などのアフェレーシス療法も行っています。

#### ● 医療機器管理業務

NICUやPICUでは人工呼吸器など多くの生命維持管理装置や患者監視装置、治療機器を使用しています。このような医療機器の管理はメーカー保守だけでなく、院内で臨床工学技士が点検し緊急時の対応を行い適正な管理を行っています。また、医療機器を安全に使用するために医師や看護師への勉強会を年間約150回行っています。

#### ●在宅医療業務

臨床工学部では開院当初から在宅医療にも積極的に関与してきました。在宅医療で使われる人工呼吸器、吸引器、吸入器、パルスオキシメーターなどを適正に使用することにより患者さんやご家族のQOLの向上につながります。例えば、在宅人工呼吸器の導入にはご両親へ機器の使用方法、回路交換、トラブル対応、移動シミュレーションなどを指導し安全に

使用できるようにサポートしています。2023年度、新規に在宅人工呼吸器を導入した患者さんは34人(うち、NHF7人)、在宅酸素療法70人、経管栄養ポンプ導入22人となっています。

### ■ 業務実績(2023年度)

(件)

■ 未	<b>穷天祠</b> (2023千点)	(14)	
	人工心肺件数	145	
	補助循環件数	10	
	呼吸療法関連		
	人工呼吸器組立·導入	998	
	NO吸入療法組立·導入	73	
臨	HFNC組立·導入	482	
床業務	人工呼吸器·呼吸療法巡回業務	13,285	
務	血液浄化・アフェレーシス		
	CRRT	52	
	末梢血幹細胞採取·骨髄血濃縮·CAR-T療法	18	
	血漿交換	20	
	ペースメーカーチェック	10	
	自己血回収	61	
	日常点検	10,095	
機器管理	点検·修理·検収(ME)	2,556	
管理	定期点検(ME)	596	
	定期点検(メ-カ-)	274	
検討	検討·調査		
指導	指導・コンサルタント		
勉強	<b>她強会</b>		
	院内指導・コンサルト・教育	331	
	検討調査(在宅導入に向けてetc)	567	
在宅医	院内点検	92	
医療	メーカー点検・定期点検	86	
	在宅人工呼吸器データ整理	9	
	自宅訪問(退院前·退院後)	0	



スタッフ一同

# 地域連携・相談支援センター

地域連携・相談支援センターは病院の窓口として様々 な役割を担っています。

# 地域連携部門

通常は患者さん・ご家族が直接お電話で予約をし ていただきますが、下記の場合は地域連携・相談支 援センターが受診の調整を行います。

- ●通常の予約よりも早期受診が必要な場合
- ●複数の診療科を受診する場合
- 外国籍の方で支援が必要な場合
- ●医療的ケアが必要な患者さんで外来受診の 負担が大きい場合

また、患者さんの来院状況、診療経過等はご紹介を いただいた医療機関の先生へ速やかにご報告します。

多様な情報を一元的に管理し、患者さんのニーズ に応えるとともに、地域医療機関及び関係機関との 連携を大切にしていきたいと考えています。更に、地 域連携懇談会や埼玉小児疾患集談会、各種研修 会、県民セミナー等の企画・運営を通して地域の先 生方と顔の見える関係づくりに取り組みます。

医療連携機関登録制度を導入し、地域医療機関 と連携を深め、患者さんの紹介・逆紹介等を円滑に 行うことのできる体制の整備を行っています。



スタッフ一同

### 相談支援部門

患者さんとご家族の方が安心して生活することが できるよう、ソーシャルワーカー、看護師、チャイル ド・ライフ・スペシャリスト(CLS)が院内の多職種 や、院外の関係機関と連携し、皆様の療養生活や社 会生活をサポートいたします。入院前・入院中・退院 の準備・退院後と療養生活やその後の社会生活に 関する様々なご相談をお受けいたします。



6番相談窓口

受付時間 平日8:45~17:00 TEL 048-601-2200(代表)

# その他の機能

# ■小児がん相談支援センター

患者さん・ご家族が抱える療養生活の不安や負担 を和らげるため、様々な制度の紹介や生活上の相談 をお受けします。

#### ■埼玉県移行期医療支援センター

小児期発症の慢性疾患を有し成人になっていく患 者さんが成人病院へスムーズに移行できるようサポー トを行います。

相談専用TEL 048-601-1509(平日8:45~17:00)

# 入退院支援センター

入退院支援センターでは、患者さん・ご家族への入 院前支援、入院調整、退院支援を主に担っています。

#### ■業務内容

# ●入院前支援

検査や治療、手術の入院が決まった患者さんのご 家族への説明を外来の看護師に代わり2021年3月よ り入退院支援センターが原則担うこととなりました。 これにより、患者さん及びご家族をお待たせすること なく円滑に入院説明を行うことができるようになりま した。

### ●入院調整

入退院支援センターの大きな設置目的はベッドコ ントロールです。当センターに入院する患者さんの多 くは非常に専門性の高い診療が必要かつ重症例で あるため、以前はそれぞれの病棟が担当する診療科 を固定していました。しかしその弊害として、ある診療 科の新規患者さんの依頼が来ても、その診療科の ベッドが満床であった場合、病院全体では空床が あっても患者さんの入院を断らざるを得ない状況が ありました。その打開策として各病棟に診療科を特定 しない「共有ベッド」を設け、各病棟があらゆる疾患・ 年齢に対応できる「循環型病棟運営」が可能となりま した。現在では全体の約10%の共有ベッドがあるた め、より効率的かつ円滑なベッドコントロールが可能 となっています。

また、入院調整においては安心、安全な医療の提 供を最優先に実施しています。依頼日当日又は翌日 に入院が必要な緊急入院の調整も入退院支援セン ターが一括して調整しています。

#### ●退院支援

多くの患者さんは入院中に検査又は治療が完結 し退院します。しかし中には退院後も治療や医療的ケ アが必要な患者さんもおります。そのような患者さん の退院後の支援も入退院支援センターの大きな役 割の一つです。

患者さんの入院前、入院から退院まで、そして退院 後の一連のプロセスが少しでも良いものになるよう努 めています。

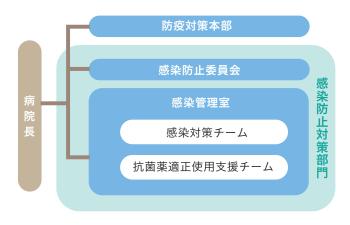


入退院支援センター受付

の部

# 感 染 管 理 室

感染対策の目的は病院内での感染症や耐性菌の 発生を未然に防ぎ、発生した場合はそれ以上拡大し ないよう可及的速やかに制圧、終息させることです。 また、耐性菌を増やさないためには抗菌薬適正使用 も重要です。当センターでは患者さんやご家族が安心 して受診、入院生活が送れるように、感染防止委員 会を設置し、感染対策チーム(ICT)と抗菌薬適正使 用支援チーム(AST) が活動しています。



### ■感染対策チームの主な取組

- ●手洗い・手指消毒を中心とする標準予防策の徹底
- ■感染症別・処置別の予防策実施
- ●院内における医療関連感染の発生に関するデー タの収集・分析(サーベイランス)
- ●院内ラウンドによる感染防止対策の確認・指導
- 感染対策に関する職員教育、相談対応
- 感染症発生状況の把握と感染症発生時の対応
- ●感染防止対策マニュアルの作成・改訂
- ●地域医療機関及び全国の小児医療施設 医師会、保健所との連携
- ■職員向け研修会の実施
- ■県民向け感染対策セミナーの実施



県民向け「感染対策セミナー」の様子

# ■ 抗菌薬適正使用支援チームの主な取組

- ●抗菌薬適正使用マニュアル(抗菌薬選択、用法用 量)の作成・改訂
- ●特定抗菌薬の投与モニタリングと適切な感染症診 療を目的とした診療介入
- ●定期的な内服抗菌薬の採用見直し、処方回数モニ タリング
- ●職員向け研修会の実施
- 県内医療機関向け感染診療勉強会の実施

# ■ 感染対策向上加算に係る医療機関連携について

当センターは、感染対策向上加算 | を算定していま す。感染対策向上加算2施設、外来感染対策向上加 算施設とカンファレンスやラウンドを行い、情報交換 を行っています。

2023年度は、近隣の医療機関や保健所との合同力 ンファレンスを年5回、さいたま市内の外来感染対策 向上加算施設とのカンファレンスを年2回、新興感染 症の発生等を想定した訓練、ラウンドを実施しまし

当センターでは、感染対策向上加算2.3、外来感染 対策向上加算の連携施設を募集しております。ぜひ 当センターホームページをご覧いただき、連携につい てご検討いただければ幸いです。

### ①感染対策向上加算について

https://www.saitama-pho.jp/scm-c/ iryokankesha/kansentaisaku/ kansentaisakukoujoukasan.html



# ②外来感染対策向上加算に基づく 連携について

https://www.saitama-pho.jp/scm-c/ iryokankesha/kansentaisaku/ gairaikansentaisakukasan.html



# 医療安全管理室

当センターにおける医療の安全確保を図るための組織 横断的な体制が重要と考え、良質で安全な医療の提供を 目的として、2006年に医療安全管理室を設置しました。

#### ■基本的な考え方

安全な医療の提供は医療の基本となるものであり、職員一人ひとりが医療安全の必要性・重要性を自分自身の課題と認識し、安全な医療の遂行を徹底することが重要であると考えています。当センターは医療安全管理室に医療安全管理者を配置し、医療安全管理委員会を実務委員会として医療安全体制の確立に努めています。委員会では院内の関係者と協議のもと医療安全管理指針及び医療安全対策マニュアルを作成しています。また、事例及び医療事故の評価分析により医療安全対策マニュアル等の定期的な見直しを行い、医療安全管理の充実を図っています。

#### ■組織体制

室長(副病院長・兼務)、医療安全管理者、医薬品安全 管理責任者(兼務)、医療機器安全管理責任者(兼務)、 医療放射線安全管理責任者(兼務)が配置されています。

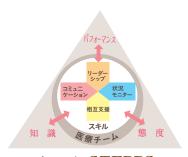
#### ■業務内容

- ●医療安全に関する情報収集、集計・分析、改善策の提案・推進・評価など日常活動に関すること
- ●有害事象発生時の状況把握、情報収集及び調査、 報告書等の記載・作成についての指導

- 関連部署との連携、関連委員会の開催
- ●医療安全に関する職員教育・研修の開催
- ●医療安全に関する患者さん・ご家族からの相談への対応
- ●その他医療安全対策の推進に関する事項



TeamSTEPPS研修の様子



チーム STEPPS

# TQM推進室

当センターでは、病院全体で医療・サービスの質を継続的に向上させるため、TQM(Total Quality Management)推進室を組織化しています。

TQMを推進していくため、特にQC (QualityControl)活動の支援に重点的に取り組んでいます。これは院内の部門・診療科ごとに医療・サービスの質向上のための取組を行っていくもので、この活動を支援するため、講演会の開催、広報

誌の発行、中間・年度末報告会の企画開催などを行っています。

このほか職員による業務改善提案の仕組みの整備などを行い、医療・サービスの質向上に努めています。 \_\_\_\_\_\_\_

取組状況については、二次元コードを読み取り、当センターホームページ「TQM推進室」からご確認いただけます。



当センター ホームページ TQM推進室

# 治験管理室

日本は欧米に比べ小児の医薬品開発が遅れており、新 規承認された医薬品のうち小児に使用可能なものは約 30%しかありません。これは保険診療における小児適応、 小児薬用量や薬物療法に必要な情報の有無又は不足に 起因するものです。また小児の服用に適した散剤や坐薬等 の小児用剤形が存在しない場合もあります。

治験管理室は、かかる小児の適応外使用を是正し、小児に最適化した医薬品の開発を促進するため、GCPに基づいた企業治験と医師主導治験を推進するとともに、治験事務局として新規治験の対応窓口となっています。また、治験審査委員会(IRB)の事務局も担当しています。小児治験を推進する全国組織である小児治験ネットワークにも加盟(加盟58施設)しており、治験の契約件数は病院移転後から急増しています。2019年以降は年間50件前後の契

約数が続いており、全国的にも小児の治験を主導する施設となっています。(詳細は病院のホームページをご参照ください)

#### 治験受託件数 2014年度~2023年度

